

「浙江大学スプリングスクール参加報告書」

京都大学法学部 1年 竹内敦也

スプリングスクールのプログラム内で実施された浙江大学の先生による中国語演習の授業に加えて、京都大学の中国人留学生による中国語教室もプログラムが始まる前に無償で開かれていたので、合計 20 時間ほど中国語を集中して学ぶことができ、僕の中国語のスキルも劇的に向上しました。特にスプリングスクールでの中国語演習の授業では、提出した音声の改善点を先生から指摘してもらったり、アシスタントティーチャーと一対一で中国語の発音練習を行ったりと、独学では決して得られない貴重な学習体験を得ることができたと思います。また中国語にとどまらず中国の伝統文化や経済状況についても、非常に洗練されていて見やすいビデオによって講義が行われました。ビデオには英語の字幕がつけられており、中国語の未履修者・初心者でもしっかりと内容を理解することができたと思います。ビデオで取り上げられていた題材は、中国古来の茶や切り絵の文化から最先端をゆく中国の電子経済まで多岐にわたり、そのどれもが興味深いものでした。とりわけ中国の電子経済については、先生と留学生とのディスカッションのテーマにも取り上げられ一層理解を深めることができました。ビデオ講義では中国経済の先進性を強調したのに比べて、ディスカッションでは先生が自らの見解を交えてパンデミックによるダメージや購買意欲の減退といった暗い面も述べてくれたこともこれに関連していると思われます。大学側が準備したプログラムは以上ですが、これらに加えて浙江大学の日本語学科の学生たちが京都大学・東京大学との交流会を自主的に設けてくれました。日本に興味を持つ彼らから繰り出される質問はいつも僕の予想の上をゆき、回答するたびに日本文化の深い理解を日本人である僕自身にもたらしてくれました。サブカルチャーを概観したり、近代文学の特性について考えたり、伝統行事の由来を再考したりする機会はめったにないので、海外の学生との交流は貴重であることに疑う余地はありません。このような学習を終えて、僕は語学力が通用する範囲や、日本文化の理解の程度を再認識することができました。これは次の海外留学、さらには将来における海外での活躍というキャリアプランを考える上で大きな助けとなるに違いありません。